新聞切り抜き　（満州旅行日記に挿入されていた）

（第三種郵便物認可）　明治四十一年六月十日　（水曜日）　萬朝報　（第三版）　第

●大仕掛な夜會

△本日首相官邸にて

▲五百名に近き大人數　本日午後七時から西園寺首相の官邸に催さるゝ夜會は非常な大仕掛にて主賓は各國大使公使及び其夫人三十餘名に日本側の田中官相、寺内陸相、齋藤海相夫人、千家法相夫妻、牧野文相、林外相夫妻等を合せて五十四名之に陪賓を加ふる時は男女合せて約五百名に近き大人數なり

▲舞踏室の晩餐會　先づ玄關を入りて取つきの大廣間、之に隣れる食堂、及び婦人客室を休憩室に充て、例の舞踏室を食堂に充てたり此晩餐會に招かれたるは即ち前記の主賓五十四名にて八時半頃會食を終り九時半までを休憩歓談の時間としたり

▲喫煙室の驚の掛物　喫煙室に掛けたる驚の大幅は故狩野芳崖が嘗て伊藤公の需に應じて丹精を凝した得意の作を出來上りて後に非難されし爲め憤然として需を辭し今は美術學校の寶物となれる珍品、疾風起りて樹木折れ猛鳥眼を瞋らせる樣物凄きまで筆の活きたるものなれば此室に入りたるもの先づ驚を奉はれぬべし

▲芝生の上の餘興場　來會者豫定以上に超えたる爲、さしもの大廣間にも入りきれず餘興場は庭園の芝生の上に設へたるゲ幅八間、奥行九間（内舞臺奥行三間、見物席奥行六間）にて屋根も四壁も本館より其儘續いて造らせたれば、見れゲ廣園の假建物とは何うしても思へず、宛ながら本館の一部のやうな心地す

▲光燦然花爛漫　餘興場の天井は白布を以て蔽ひ杉の綠葉にて井筒形に組み四側の大旋風器涼風を送り、數百の電燈燦然として光の宮に入りたるゲ如く、天井、柱、電燈の紐、欄間、梁に至るまで隙間なく飾られたる牡丹、菊、薔薇、山吹等の造花は爛漫として不斷の香氣充ちわたる花の殿堂に遊びたる思ひあらしむ

▲時代劇と喜劇　餘興として催さるべき演劇は新派俳優の重立ちたる人々の腕競べにて上の卷は日本の時代風俗を見せたる『美術』と題する狂言、下の卷は新舊兩樣の結婚風俗を見せたる『結婚』と題する喜劇、一方は伊井、喜多村一派、一方はまた高田、河合一派ゲ特殊の妙技を見せる由なれば定めて内外來賓の喝采を博することなるべし

新聞切り抜き　（満州旅行日記に挿入されていた）

自殺者十一人

自殺の日時	自殺の方法	自殺の原因	自殺者住所氏名
十八日夜九時頃	南葛飾郡小岩村の淺い川に投じて殺はる	情夫と欠落して中途に捨てられて	南葛飾郡小岩村田島宇吉次女お文（十九）
十八日夜十時	自宅にて剃刀を以て下腹を切る、生命覺束なし	夫が發狂して死せし後貧苦に迫りて	日本橋通二の九小林方同居南葛飾郡一ノ江村田澤七ゆん（元十五）
十九日曉一時	軍用煙管を以て咽喉部を貫き即死	社會主義者にして厭世の旨遺書あり	群馬縣多野郡神川村新井彰（二十四）
十七日夜八時	自宅植木温室の梁に首吊	精神錯亂	本所向島請地七〇植木職岩船政八（廿三）
十八日夜十一時	主人宅裏土藏の梁に首吊	惡性の癲病	日本橋横山町一の一メリヤス商高見方雇入埼玉縣人石川仙太郎（廿三）
十九日朝六時	隣家便所の窓に首吊	娘の不身持を嘆きて	本所南二葉町四三杉山藤右衛門（八十三）
十八日朝八時	龜井戸附近の畠道に飛込即死	奉公が辛さに	本所長岡町飾職小島方雇人柴崎清吉（十六）
十八日	築地明石町海岸に投身	數日前より家出（原因不明）	本所錦糸堀一九三荒井奥次郎（五十四五）
十七日夜八時	北足立郡久下新田附近鐵道に轢死	入籍を嫌り養父母に嫁はれて	埼玉縣比企郡明覺村源野富平（三十）
十九日朝六時	芝離宮側に投身ポチヤ〳〵する中救はる	伯父の金を使ひ込む	京橋區前堀一の二西洋洗濯業寺井幸三郎（廿七）
十八日正午	參謀本部前の濠に投身せしが中止して這上る	郷里より送金なきため	銀座四の三、三上回漕店雇人福島縣石城郡玉川村柳沼定之助（三三）